



日本トリム社長
森澤紳勝さん

春爛漫の季節を迎え、学生、社会人として新生活を始められた皆様、おめでとうございます。私が社会人になった時、まず思ったのは「期待、まず思ったのは「期

次は10の期待を得、それに応えれば、さらにより大きな期待を受ける。その繰り返しで、人は成長していきけるものです。

これは、企業も同じです。起業したころは、会社には人・物・金のどれもなくて、当然信用もありませんでした。しかし、私が、

「期待される人であれ」
ひいては会社が周囲の期待に応え続けたことで信用を得ることができ、会社が成長してこられたのだと考えています。私は経営者として、社員全員の期待も背負っています。創業当初、私が一番悩み苦しんだのは人の採用です。その人の人生を自分が背負いきれるのか、信用も何もない会社を選んでくれた期待に応えらるのか――。

次代をつくる

待される人になろう」という事でした。人は、必ず誰かから期待されているはず。一番身近なところでは、ご両親、

ようし、やがては夫、妻、子供でしょう。社会において、会社の上司などと、いろいろな顔が浮かぶと思います。

5の期待に応えれば、

題字は堀場雅夫・堀場製作所最高顧問

もりさわ・しんかつ 1944年高知県生まれ。東海大学文学部卒業後、健康関連機器製造販売会社を経て82年、電解還元水整水器メーカー「日本トリム」創業。00年11月ジャスダック、03年2月東証2部、04年3月東証1部上場。

「期待される人であれ」
人生の新たなステージを迎えられた方々に、この言葉を贈ります。

2007年4月24日(火) 毎日新聞夕刊(近畿版)掲載